

## 飯能市の概要

飯能市は埼玉県のほぼ南西部山麓に位置し、都心より 50km 圏内、県南西部の奥武蔵丘陵を含む地方中核都市である。市域は、西の秩父山脈に向かって東西に長く、地形は山地、丘陵地、台地に分けられる。北西部は山地で、関東山地の北部をなす秩父山地に属しており、市域の 70% を占めている。南東部は丘陵地及び台地で、北の高麗丘陵と南の加治丘陵の間の台地部分に市街地が発達している。さらに、入間川、高麗川の二大河川が、西部山地から東部台地へと貫流している。昭和 18 年 4 月飯能町・精明村・元加治村・加治村・南高麗村の 5 町村が合併し、同 29 年 1 月 1 日市制が施行された。同年 4 月元加治村（野田・仏子）を分離し、同 31 年 9 月原市場・東吾野・吾野の 3 か村を合併して現在の飯能市となった。

飯能市の人口動向は、昭和 40 年代において年間 1% 台の比較的緩やかな増加にとどまっていたが、昭和 50 年代に入ると転入人口が増加し、年間 2% 台の伸びを示すようになった。平成 14 年 7 月 1 日現在、人口は 82,810 人、世帯数は 29,411 世帯で、近年の傾向としては人口がほぼ横ばい、世帯数は増加傾向である。

交通は、東部地域に西武池袋線「飯能」駅、「東飯能」駅があり、これが西部地域にのびて「東吾野」駅、「吾野」駅、「西吾野」駅、「正丸」駅が山間部にある。また、東部地域を南北に JR 八高線が通り、「東飯能」駅がある。これらの各駅から池袋方面・八王子方面・高崎方面へ連絡されている。バスは飯能駅をターミナルとして西武バスと国際興業バスが市内及び隣接市町村へ運行されている。また、道路は飯能市中心街を起点として北方へ主要地方道「飯能寄居線」、西方へ同「飯能名栗線」、南方へ同「青梅飯能線」、東方へ県道「馬引沢飯能線」が延び、中心街を国道 299 号が貫き入間・狭山方面と秩父方面を結んでいる。

商業施設は、飯能駅前通り、銀座通り、中央通りの各商店街が中心街を形成し、とくに駅前通りは、まるひろ百貨店をはじめ中層商業ビルが連たんしている。また、飯能駅ビル「西武飯能ペペ」及び南口方面に立地する「ショッピングモールサビア飯能」は共に活性化が図られている。このほか、国道 299 号沿いに新しい郊外型の店舗の進出がある。

飯能市は、総面積 134.60 k m<sup>2</sup> の内、約 37% にあたる地域が都市計画区域に指定され、そのうち市街化区域が約 24% を占めている。市は基本方針に沿って、住都公団による大規模な土地区画整理事業による丘陵地の宅地造成で居住環境良好な住宅地域を形成し、また、「阿須運動公園」、「あけぼの子どもの森公園」などの生活環境の整備や、道路整備、「緑のトラスト地の公有化」などの環境整備も進めてきた。現在も「笠縫」「前ヶ貫・矢嵐」をはじめとする 6 箇所の土地区画整理事業の計画的推進と、東飯能駅周辺整備事業の推進を含めた生活環境・都市基盤の整備が行われ、さらに発展していくものと考えられる。

平成 14 年 7 月 18 日作成